

社会福祉法人白寿会 令和4年度（2022年度）事業報告

【法人本部】

1. 本部事業報告

2022年度も新型コロナウイルス感染症対策を重視した運営となりました。早期のワクチン接種や日常的な感染対策も行っておりましたが、12月につむぎ苑で、1月に特養でクラスターが発生し、対応に追われました。事態収束後、大阪市のアドバイザー派遣事業を活用し、多職種が集まり、自分たちの感染対策について振り返る場をもてたことは、今後大いに活かせると考えております。

職員確保については、コロナ以降WEBを中心とした採用活動となりましたが、新卒採用が低調で、今後に課題を残しました。3月から2024年4月入職者の採用活動がスタートしておりますが、早期化への対応など、これまで行ってこなかった取り組みにも着手してまいります。

2020年度からはじめた「SUT（Skill Up Target）制度」という当会独自の研修制度が3年目となり、職員一人ひとりの成長を見守っていく仕組みが定着しつつあります。経験豊富な介護職員については研修企画に取り組み、さらに知識や企画力を磨いています。2023年度はさらにブラッシュアップを図り、質の高いサービスが提供できる人財を育ててまいります。

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2022年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は88.1歳、平均要介護度は4.0、平均在所期間は50.6か月です。

医療機関への入院者実人数は47名。死亡退所者数は20名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は4名となりました。

高齢者虐待によるやむを得ない措置入所は1件の受け入れを行いました。

特養として注力し取り組んでいる看取り介護については、死亡退所者全体の80%となり前年度より9%増加しております。

虐待保護の措置入所ケースや、いっそう高まる看取り介護、認知症ケアのニーズに 대응していくため、各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取り組みを強化し、入所者、ご家族からの安心と信頼頂けるサービスを提供できるよう、積極的に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底してまいりましたが、本年1月1日より入所者30名（内ショートステイ利用者3名を含む）、職員17名が罹患する事態となり、当苑において過去最大の施設内クラスターが発生しました。重症化リスクの高い入所者4名は医療機関へ入院しましたが、26名は施設内療養となりました。感染拡大防止対策の効果もあってか、発生フロアは限定されたので全館閉鎖には至らずに済み、また幸いにも全員が重症化することなく軽快されております。

本年5月からは感染症分類が5類に移行しておりますが、今回の経験を踏まえ、今後も感染症対策を十分に徹底し、新規入所を進め稼働向上に努めてまいります。

3. 短期入所生活介護

2022年度は前年度からつづく新型コロナウイルス感染症による利用抑制が働き、稼働が低調となりました。本年1月から2月においては、特別養護老人ホームにおける施設内大規模クラスター発生によって利用者5名（内、退所後発症者2名を含む）が罹患されました。クラスター発生フロアの長期間閉鎖にとどまらず、感染症罹患のリスクから発生フロア以外の利用者も利用を控えて頂くこととなりました。その影響から月平均稼働率は55%、最高は9月度の68%、最低は1月度の27%となりました。

利用者全体に占める中重度利用者（要介護3以上）の割合は、平均78%となりました。

大阪市認知症等高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務を引き続き受託し、前年度より2名増加の9名の緊急受け入れを行いました。

本年5月より新型コロナウイルス感染症は感染症分類が5類に移行となりましたが、感染症対策には十分に注意し、新規利用者及び定期的利用者の確保と緊急利用ケースへの柔軟な受け入れを行い、稼働向上に努めてまいります。

4. ケアハウス白寿苑

2023年4月1日現在、入居者数31名です。平均年齢は86.8歳、要介護認定を受けている入居者は24名です（その内、要支援...6名、要介護1...7名、要介護2...8名、要介護3...2名、要介護4...1名です）。

- ① 行事、サークル活動については、新型コロナウイルス感染予防のため、これまでのものは全て中止しました。コーヒーのルームサービスのみ毎月実施しました。『パッチワーク教室』も外部ボランティアの講師との接触を避けていただくため、再開できませんでした。個別にできるものとしては、『ヒヤシンス』の水栽培を楽しんで頂きました。

- ② 個別の援助計画を作成し、実施しています。
- ③ 入居希望者の見学・面談については、利用者との接触がないよう、日曜日に行うなどの工夫をしながら実施しました。

5. 白寿会診療所

(1) 感染対策

新型コロナウイルス感染症は、2023年1月にクラスターが発生しました。そのため、大阪市保健所に相談し2月にスーパーバイザーを招き、多職種スタッフが集まり振り返りを行いました。そこで行われたグループワークおよび助言からは学びも大きく、今後の感染対策へつなげることができました。マニュアルの見直しの重要性も再認識でき、変化する感染対策に対応していけるよう努力を続けます。

新型コロナウイルスワクチン接種も入居者の皆様へ積極的に実施でき、入居者のほとんどが、5回目接種を終了されました。

【在宅部】

2022年度在宅部において、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、有料老人ホームつむぎ苑でクラスターが発生しました。クラスターは感染対策を行い最小限にとどめることができ、補助金の申請、新規利用者の確保を維持することにより、収益を確保することができました。職員数の減により減収となる事業がありましたが、在宅部全体としては、前年度収益から増額しております。

これまでの経験を積み上げ、BCPに反映し、感染症対応における事業への影響を少なくし、安定した事業運営を行います。

2022年度地域包括支援センター及び認知症強化型地域包括支援センター運営法人の公募がありました。受託希望法人として応募し、6年間の受託が決定されました。新型コロナウイルスが5類へ移行され、地域の動きも活発になってくることが予測されます。感染対策とのバランスを保ちながら、地域包括ケアの拠点としての取り組み、地域交流の再構築を行います。

次回2024年度介護保険法改正に向けて、準備を進め、必要とされる体制づくりについて検討していきたいと思っております。

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

2022年度も冬季を中心に新型コロナウイルス感染者が出ましたが、事業を休止するまでには至りませんでした。その結果、前年度収益の107.3%となり増収に繋げることができました。取り組みの内容としては、ソーシャルディスタンス等の感染防止策を実施し、ご満足頂けるようなレクリエーションを提供させて頂きました。5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症が5類となりました。この発表をきっかけに感染対策委員会と意見交換をして、コロナ前の取り組みやケア内容等（入浴・食事・レクリエーション・機能訓練）を改善していきたいと考えております。

次年度も、個別機能訓練や厚生労働省へのデータ提出（LIFE）等を行い、更なるサービス向上と増収に繋げることができるよう取り組んでいきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	通所介護	介護予防型 通所サービス	短時間型 通所サービス
2021年度	¥56,798,368	¥1,642,889	¥2,662
2022年度	¥60,884,677	¥1,836,824	¥0
差額	+¥4,086,309	+¥193,935	-¥2,662
合計	+¥4,277,582		

◆デイサービスほかほか

一般デイサービスと同様に事業を休止することなく、前年度収益の103.3%と増収になりました。そして、今年度の地域運営推進会議もコロナ禍のため、電話連絡での対応になりましたが、地域代表者様と取り組みを共有し、貴重なご意見を頂くことができました。寺子屋教室ではICTを活用し、利用者個々にあった内容を提供することができました。2023年度は、「手作り昼食」を開始させ、利用者の生活機能訓練になるように取り組んでいきたいと考えております。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	認知症対応型通所介護	介護予防認知症対応型 通所介護
2021年度	¥30,139,262	¥55,989
2022年度	¥31,204,099	¥0
差額	+¥1,064,837	-¥55,989

合計	+¥1,008,848
----	-------------

7. ヘルパーステーション白寿苑

2022年度は新型コロナウイルスの職員感染もなく営業を止めることなく一人あたりの稼働率も安定しておりました。

利用者の生活習慣や価値観を尊重した支援を心掛け、多職種が連携し在宅生活を継続できるように支援しました。

利用者ヘルパーの信頼関係の構築を心掛け、利用者の健康状態を観察し、異常の早期発見に努めました。

職員間で日常的に情報交換を行い介護技術の向上に努めました。

・介護保険サービス（逝去2名、入所2名、転居2名、新規5件）

月平均 利用者数21名 訪問回数188回 訪問時間206時間

生活援助	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0%	3%	8%	31%	32%	16%	10%	0%

・障がい者総合支援法サービス（逝去1名、入所2名、新規1件）

月平均 利用者数18名 訪問回数136回 訪問時間230時間

障がい別	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重度障がい	視覚障がい
割合	24%	17%	35%	6%	18%

支援内容	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 身体伴わない	同行援護	移動支援	重度訪問
割合	17%	27%	14%	1%	21%	12%	8%

今後も丁寧なサービスを心掛け、家族のニーズ、本人のニーズをあわせた個々の支援方法を各関係機関に相談し、連携して行ってまいります。

8. 有料老人ホームつむぎ苑

2022年度をつむぎ苑の実績といたしましては、平均稼働率は86.6%、前年度の79.1%と比較し回復傾向にあり、下半期の稼働率としては90.5%、9割の稼働率を達成することができています。収益では前年度より約980万円の増収となりましたが、自費サービスに関してはコロナ禍による外出制限のため、コロナ前と比較し約5割減となっています。

2022年度は社会のウィズコロナの流れに同調するように、入居問い合わせ件

数も増加し、それに比例し稼働率、収益率も回復傾向となり喜ぶ結果となりました。しかしながら、年々減少する自費サービスの収益は、ご利用者の活動性の低下を意味し、QOLの指標ともいえるものです。QOLの低下＝サービスの質の低下と言い換えても差し支えのないものだと考えており、これは今後の運営を考える上で、大変重要な課題であると認識しております。

アフターコロナへと向かう社会の中で、もう一度、つむぎ苑をどのような施設としたいのか、原点に立ち返り、考えなおす良い機会にしたいと考えております。

		総額	介護サービス費	自費サービス
請求額	2021年度	¥107,193,235	¥57,418,107	¥110,110
	2022年度	¥116,957,164	¥61,746,690	¥97,526

●相談支援課

9. 玉出地域包括支援センター

◆地域支援事業

地域の医療・介護のネットワーク構築や認知症施策に関する会議体は 感染状況に応じ、ハイブリッドや書面、必要に応じて参集形式にするなど、柔軟に運営を行いました。

【玉出地域包括支援センター実績】

総合相談件数 9283 件（昨年 7975 件）、権利擁護虐待対応実件数 3 件

介護支援専門員支援からの相談 1517 件（昨年 1203 件）

はつらつサークル（独自事業）・・・書道サークルを定例で実施できた。

オレンジカフェでは認知症の介護をされている、あるいは経験したご家族の集いであるのに対して、「本人亡き後」の介護者（遺族）向けの集いの場を試験的に開催しました。

また生活課題が複雑に入り組んでいる、世代や制度を跨る内容の事例も微増しており、一人の利用者にあたり支援期間が長くなるという傾向は前年度と変わりありません。

【認知症強化型地域包括支援センター実績】

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・・7 件

認知症推進代表者会議、実務者会議・・・合計 14 回

認知症対応力向上研修 1 回

認知症啓発イベントは、ミニ講演会や動画上映、作品展などを開催。認知症の当事者（映像のみ）やご家族にも参加しやすく相談につながるよう

な企画が功を奏し、実際の相談につながるという結果を出すことができました。

また、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター、見守り相談室が協働の末、「認知症ケアパス」を完成させることができたこと、認知症地域支援コーディネーターが「ちーむオレンジ」のチーム結成につながったことは次年度への事業展開に向けての足掛かりにしたいところです。

◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 6044 件（昨年度 5636 件）、

地域包括支援センター延べ実績 489 件（昨年度 478 件）

一部委託 5555 件（昨年 5158 件）で対応しています。

10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

（1）相談実績数

2022 年度の個別支援件数は 41 件、一方相談対応数は 99 件ありました。これらを合わせた対応総数は 140 件となり、2021 年度の 139 件とほぼ同数でした。

個別支援件数を地区別で見ますと、千本地区 6 件、次いで萩之茶屋・橘・天下茶屋の各地区が 4 件となっています。個別支援件数は月平均 3.4 件で、昨年度を約 1 件上回りました。ウィズコロナで個別支援件数も戻りつつありました。

相談対応数は毎月概ね 10 件前後ですが、個別支援に移行した事例もありました。家族からの相談は 9 件でしたが、別居家族からの相談が増えました。

（2）広報啓発活動

ウィズコロナを基本に社会経済活動の再開維持と同時に感染拡大の波もありましたが、状況に合わせて前年度並みに計 43 回行いました。

ホームページの定期更新、白寿会 SNS での情報発信は基本的な手法となっています。インターネット検索による相談や問い合わせも増えています。

新たに認知症ケアパス（認知症の人の状態に応じたサービス提供の流れ）を生活支援コーディネーター、見守り相談室との三者協働により作成しました。なお、2023 年度では関係機関、地域活動の場へ説明と配布をしていきます。

（3）ネットワーク構築

『ほっと！ネット西成』連絡会の事務局として、実務者級連絡会議兼関係者会議をはじめ、オンラインを使った認知症対応力向上研修を実施。区民向け啓発イベントでは作品展と博覧会型式イベントの二段構えで開催しました。

個別支援や地域ケア会議では、認知症に関する専門的なアセスメント、医師の説明に基づいた支援の方向性等に関して提案や助言を行いました。

1 1. ライフサポートセンター白寿苑

特定事業所加算を取得しているので適切なケアマネジメント業務と適正な運営を行っています。ケアマネジャーの質向上においても、それぞれ個人目標を設定して研修等に参加しています。事業所としても日々のケアマネジメントを疎かにせず運営基準違反や減算にならないように運営指導は継続していきます。

2022年度も、玉出の「みんなの居場所」をお借りして地域のケアマネジャーと小単位で介護保険、制度、事例検討会、地域の情報等共有しながら勉強会を開催しています。コロナ禍で顔を合わせた交流が減っていたこともあり、他事業所のケアマネジャーからも好評です。次年度も継続していきます。

事業所の運営について、新規利用者獲得について 2022年度は、要介護者 39件、予防 7件です。地域包括支援センター、病院、地域利用者からの相談件数が主です。

収益については 2022年 22,068,885円（2021年度 23,092,176）対前年度比 98.6%となっています。年間を通して入院、施設入所、逝去等により減少傾向です。今後も引き続き新規獲得により収益につなげていきます。

1 2. 相談支援事業はなめ

(1) 事業内容について

2022年度も相談員 1名体制（兼務）で稼働しました。「精神障がい者支援体制加算」は前年度から継続して算定しています。今年度後半は、障害サービス事業所の感染予防対策が緩和され、サービス提供時モニタリングを積極的に行っており、「評価加算」算定件数は増加しています。

高齢者サービスとの共生を目指す取り組みとしては、引き続き「あいサポート研修」の周知を行っています。また、介護保険へのスムーズな移行のため居宅介護支援事業所と連携しています。

(2) 実績について

利用登録者数は、月平均 41.9名です。請求件数は月平均 31.4名と前年度とほぼ同数です。行政の事務処理遅れで 2、3月提供サービス 10件が請求できず前年度を上回れませんでした。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は 63件と増加しています。収益は前年度の 99.5パーセントとなっております。

廃止件数は 5件のうち 3件は介護保険への移行ケースです。新規登録件数は、8件のうち 7件はサービス事業所や医療機関等からの依頼です。地域関係機関との連携強化に取り組んだ結果と評価しています。引き続き会議や行事に参加し地域関係機関との連携強化を図ってまいります。

【白寿会研修センター】

1 3. 喀痰吸引等研修事業

当事業は、2013年度より開始し、近隣の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しております。

2020年度および2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、不開催といたしました。2022年度は実施方法を通学型から「オンデマンド配信+スクーリング方式」にリニューアルし、配信に関しては専用システムの導入や外部委託はせず、既存のアプリケーションを組み合わせた新たな仕組みを構築して実施しました。基本研修は2022年7月～12月（1名のみ2月に実技演習）に実施、23名が参加、「現場職員による現場職員のための喀痰吸引等研修」として、ゆとりのある期間設定を行い、パソコン、スマートフォン、タブレットがあれば「いつでも、どこでも学べる」と好評でした。スクーリングについても、指導看護師陣の丁寧な指導により大変充実したものになりました。

なお、これまで12回の参加実績は、基本研修参加者が計239名、そのうち実地研修も含めた全課程修了者が198名、基本研修修了後実地研修受講中が29名（2023年3月末現在）、また基本研修免除研修への申込は5名、修了者も5名となっています。